

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。	教科指導[教育課程]を通じて、保幼小、小中、小小のつながりを深める。 <u>Plan</u> ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 <u>Do</u> (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同研修の実施 <u>See</u> ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	自ら考えよりよく行動する	「心豊かによりよく生きる子どもを目指して～自ら考え行動する力の育成～」 ・教員の授業力向上を図る 研究授業・校内研修の実施 ・外国語活動の推進 モジュール授業の試行 ・学力・学習状況調査の分析・考察 ・思考を表出させる 思考ツールの活用 ・情報機器の活用 タブレットを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを活かした授業 ・朝学習の充実し、基礎基本の徹底 ・算数ダッシュの充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら、再度組み立てなおす。 ・英語活動の本格実施 授業の充実 モジュール学習の充実 評価の研究 ・道徳授業、評価の充実	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら総括を行っていく ・外国語科・外国語活動の本格実施 授業の充実 モジュール学習の充実 評価の研究 ・道徳授業、評価の充実 ・算数科における授業改善 ・図書館を活用した授業づくりの推進
豊かな人間性を育む	仲間を認め合い共に学ぶ集団	・各学年の重点目標の達成 ・集団づくりの取組みの推進 ・いじめを許さない集団づくり ・食肉プロジェクトの取組み ・道徳教育の充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら、再度組み立てなおす	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら総括を行っていく ・男女共生教育の充実
健康・体力の増進	自ら楽しんで、運動する子の育成	・体育の授業で 授業力 教具・教材の工夫 茨木っ子運動 校内実技研修 ・休み時間で 遊具の充実 マラソン週間 クラスのみんな遊び 友だち学級との遊び ・保健体育科の授業の充実 ・食育 ・安全・防災教育の充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、年度毎に組み立てなおす	2年目の取組みの成果と課題を検討し、改善を行い、総括を実施する。授業力 教具・教材の工夫 茨木っ子運動 校内実技研修 遊具の充実 外に出よう DAY マラソン週間 クラスのみんな遊び 友だち学級との遊び ・食育 ・安全・防災教育の充実
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ②書くこと
概ね良好な結果であった
- ③読むこと
概ね良好な結果であった
- ④言語事項
やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった
- ②短答式
やや課題が残る結果であった
- ③記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の低かった設問
漢字を文章の中で正しく使う設問。
- ・もっとも無解答率の高かった設問
 - ①漢字を文章の中で正しく使う設問。
 - ②話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる設問

分析

- ・言語事項が全国と比べて低いので日頃のテストのやり直しなどの徹底をする。また日頃の作文などでも漢字を使うなどのチェックをしっかりと行う。
- ・同音異義語の理解が弱い。
- ・漢字を文章の中で正しく使うことに課題がある。
- ・選択式はできるが、言葉を探し出す、指定された字数で書く短答式に課題が残る。日頃の日記や作文で言葉や文字数を指定して書かせる練習が必要である。また、普段から一文が長くなりすぎないように指導していく必要がある。
- ・無解答の児童が多いので日頃の授業で自分の考えを書く練習をしておく。
- ・児童質問紙から、自分の考えを話したり書いたりする授業がないと実感している。
- ・本や文章全体を概観して効果的に読むことに課題がある。
- ・授業以外でも、自分の考えを全体に伝える練習が必要である。
- ・朝の会などでも、台本なしで話す練習を積み重ねていく必要がある。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率が高かった設問
棒グラフから資料の特徴や傾向を読み解く設問
- ・ もっとも正答率が低く、もっとも無解答率の高かった設問
示された計算の仕方を解釈し、減法の場合をもとに除法に関して成り立つ性質を記述する設問

分析

- ・ 日頃から授業始めのダッシュの成果など学習の反復ができていますので全国平均より高くなっているため、今後も継続していく。
- ・ 量と計測・図形領域はよくできている。
- ・ 数と計算は全国平均にかなり近い。割り算や小数、分数の計算などの練習がもっと重ねる必要がある。
- ・ 自分の考え方を順序立てて説明することに課題がある。
- ・ 計算のやり方がわかっているのに、意味を理解できていない。
- ・ 指定された言葉で説明することに課題がある。
- ・ 無解答率が下がっている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- 平均正答率は、経年で見ると下がってきている。
- 今年度の国語は、学力低位層と中位層が増えているため、これまでで1番低くなっている。
- 無解答率は、増加傾向である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー（EP）層についての分析

- 学力高位層が減り、学力低位層が増えている。
- EP層は経年比較で見ると増加傾向にある。
- 国語では高位層の割合が過去10年で一番低い。

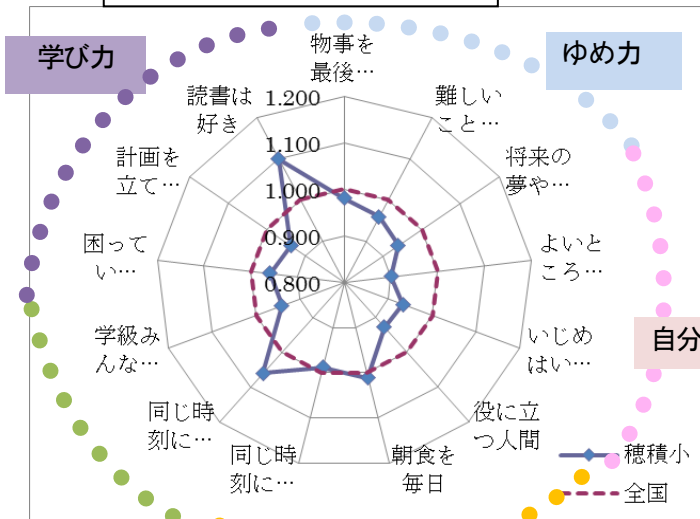
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

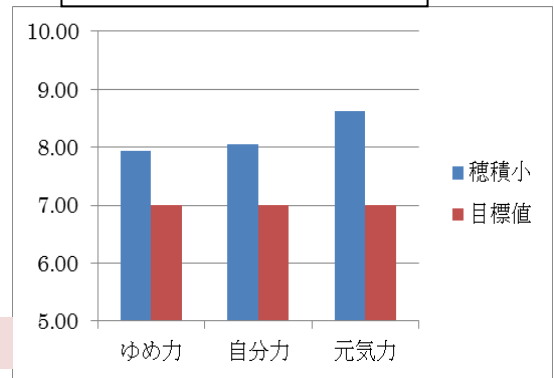
- テストの解答の仕方を見ているとノートのとおり方、文章の書き方などの基本的なことをもう一度徹底していく必要がある。
- 去年の課題からダッシュで重点的に取り組んできた「小数+整数」「最小公倍数」「割り算を分数に直す」などつまずきの多い問題は少し上昇傾向にあるが引き続き取り組んでいく。
- 要約のトレーニングをして自分の言いたいことをまとめる。
- 高位層を増やすために、早くできた子どもに対して、読書だけではなく課題を用意しておく。
- 子どもの層に合わせて、手立てを用意しておく。
- 業間の休みなどに積み残したことを復習など低位層へのアプローチの取組みが必要である。
- 算数は3年生から少人数で取り組むことによって、一人ひとりの学力向上に繋がっていると思う。今後も継続していくことが大切。
- 文法の復習問題を定期的に取り入れていく必要がある。
- 1年生では言葉集めや既習の漢字を使った作文など、テスト後の過ごし方を学力の向上に繋がるような課題を与える。
- 図書の時間を自由読書以外の、図書を活用した授業を今後も取り組んでいく。
- 漢字ドリルのテストは問題番号の順番を入れ替えて、どんな順番でも答えられるようにする。
- 宿題では漢字の書き取りだけでなく、国語プリントなどを入れて文法の確認をする。学期の始めにあらかじめ5種類ほどプリントを用意しておき、いつでも使えるようにしておく。
- 宿題の算数プリントの裏面に10問程度の復習問題を入れる。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



つながり力

元気力

※今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』『元気力』のみとなっています。

分析

- ・自尊感情が低いため、認め合えたり、自己肯定感を高めたりできる取り組みが必要である。
- ・「いじめはいけない」で否定的意見 (6.7%)、また中間的意見 (21.3%) はかなり多い。
- ・「読書が好き」と答えた児童が多いのは、今まで様々な取り組みをしてきた成果が出ている。
- ・自尊感情が低い児童が多い。
- ・規範意識に課題がある。
- ・他人に関わることに無関心な児童がおり、自信がなくて関われない児童もいる。

取組み

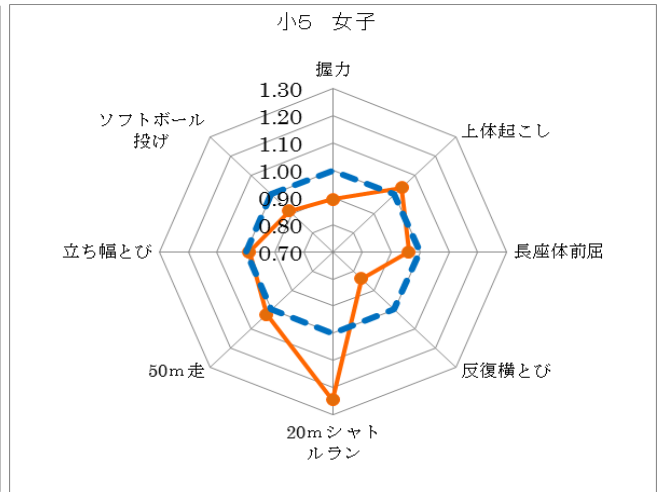
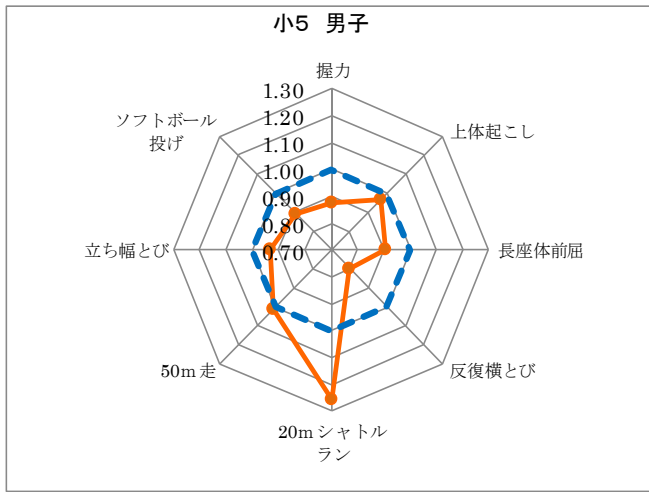
- ・互いに認め合えるような学級集団づくりに努めていく。
- ・元気調査やその後の聞き取りをもとに把握、指導を徹底する。また、人権学習や道徳の授業でいじめはいけないという価値観をはぐくんでいく。
- ・具体的にその児童に個別に指導する必要がある。
- ・帰りの会や学級会などで友だちのいい所を認め合う活動を定着させる。
- ・学年だよりや連絡帳などを使って、保護者が子どもに働きかけるきっかけを作る。
- ・自尊感情を高めていくため、1年生から毎年、もちあじの取り組みを進めていく必要がある。
- ・普段の生活から、子どもに対しての声かけを意識していく必要がある。
- ・長期休みに生活表を活用して自分の生活のスケジュールを立てたり、学習の計画を立てたりできるようにする。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

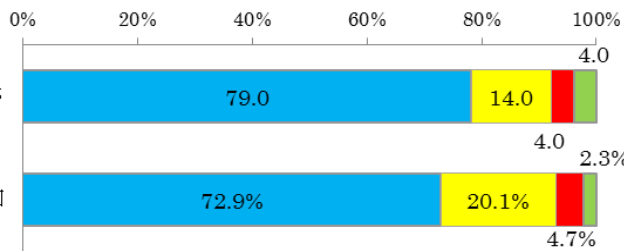
〇●体力●〇

男子 (小5)

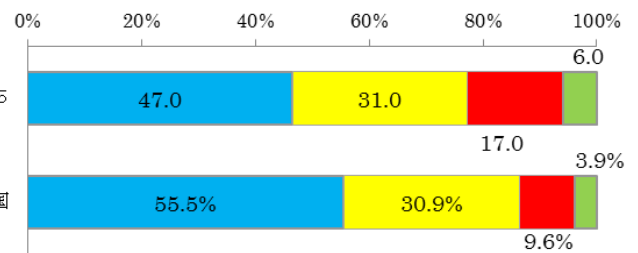
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・全体的に全国平均を下回る傾向がある。
- ・男女共に握力、反復横跳びが全国平均より極端に低い。
- ・20mシャトルランは男女共に若干の上昇がみられる。
- ・持久力に関して前年度からの体育委員会などの取り組みで一定の効果があったので、引き続き行っていく。

取組み

- ・反復横跳びの記録を伸ばすためにラダーに取り組んでいく。
- ・引き続き授業で「茨木っ子運動」を行い、体幹を鍛える。
- ・今年各クラスに配布した遊具を活用して休み時間も外で遊ぶように促す。
- ・体育委員会などによって休み時間も外で児童が運動する時間を設ける。(外に出よう DAY 冬の運動など)
- ・校内研修を行い、教員の授業力向上を図る。